

令和5年度

学校自己評価表（計画）

| 学校運営計画 | | | |
|---|--|---|----|
| 学校運営方針 | 教育目標である「真理を探究し人間を形成する」「技術を高め創意工夫する」の達成のため、本校は工業技術者や地域の発展に貢献する職業人を育成している。本校は、教育活動を通じて多くの知識を学び、上級学校での学習面や各職場でその学びを生かし、社会に有為な人材を育成することを目標とする。そして、学校－家庭－地域の連携を一層推進するとともに、さらなる教育活動の充実を図る。 | | |
| 昨年度の成果と課題 | 年度の重点目標 | 具体的目標 | |
| 【成果】 ①国公立大学合格・希望企業への内定など進路希望達成を補佐することができた。 ②学校行事を精選実行し、生徒が主体的に活動することができた。 【課題】 ①授業改善から生徒の主体的な学びを引き出す。 ②いじめ防止対策委員会及び生活支援委員会等の機動性を高める。 | 探究的思考力を育てる。 職業人として求められる探究的思考力を育むため、本校独自の実践的な工業教育を推進する。 | ○総合的な探究の時間や課題研究を通して探究的思考力を育成する。 ○職業人に求められる倫理観を養い、創造的に解決する力を育成する。 | |
| | 工業に関する学習成果を生かして地域に貢献する教育活動を推進する。 地域に貢献する意識を高め、上総GAKを通して豊かな心を育てる。 G：元気に、頑張る、ゴールを目指す上総 A：明るい、挨拶、愛情の上総 K：協力、感謝、貢献の上総 | ○地域・産業界、大学との連携による実践的な学習活動や体験活動を通して、地域・社会の発展を担う職業人として、身につけるべき資質と能力を育成する。 | |
| | 新学習指導要領の実施。 一人一台端末や統合型校務支援システムを活用し、効率的かつ効果的な学習を推進する。 | ○ICTの活用により生徒の学習を支援する。一人一台端末の有効的な活用により主体的な学びを身に付けさせる。 | |
| 重点目標 | 具体的目標 | 具体的方策 | 評価 |
| 教科指導 (教務) | 学力の向上を図る。 | シラバスを整備し、計画的・継続的な授業の展開を図る。 | |
| | | 学習のための用具、教材を整備し学習環境を整える。 | |
| | | 各種アンケートを実施し、授業内容・学校生活の改善を図る。 | |
| 学力の向上を図り | 適切な年間行事計画を編成。 | 適切に年間の授業時数を確保する。 | |
| | | 部活動・資格取得試験等に配慮し、学校行事を適切に配置する。 | |
| 進路実現を目指す | 進路実現を目指したコース選択・科目選択を実現する。 | 生徒の将来の進路を見据えたコース選択・科目選択ができるように、適切なガイダンスを実施する。 | |
| | | 各教科及び学年会と連携を取り、円滑なコース選択を実現する。 | |
| | | 生徒の希望を尊重しつつ、実施可能な選択科目を調整する。 | |
| 教育情報 (教務) 環境の 充実 | 情報教育環境の充実を図る。 情報を発信する。 視聴覚教材・機材の充実を図る。 | 生徒・職員がネットワークやコンピュータを円滑に利用できる校内体制を整備する。 | |
| | | Webページを活用し、保護者や生徒に情報を発信する。 | |
| | | 授業・学校行事等における、視聴覚教育の重要性を認識し、高水準の教材・機材等の充実を図る。 | |
| 進路指導 (進学) | 高校生として必要な学力を身に付けさせる。 | 1年生や保護者に対し、進路意識啓発のための講話を実施し、進路実現のためには基礎的な学力が必要であることを説明する。 | |
| | | 日常の生活指導を通し、日ごろの学習習慣の重要性を意識させる。 | |
| 生徒・保護者の希望 | 自己実現のための進路意識を啓 | 生徒、保護者を対象に進路説明会、進路講話、大学見学会を実施する。 | |
| | | 進路体験報告会を開き、合格体験プロフィール集を発行する。 | |

| | | | | |
|--|------------------------------------|---|--|--|
| 望する進学先への進学推進 | 発する。 | 基礎学力テストを実施し、早い段階から学習意欲を高める。 | | |
| | | 年数回の模試を実施し、各自の学力を認識させ、学習意欲を高める。 | | |
| | | 3年生の1学期中に進学希望先が決定するように指導する。 | | |
| | | 進学だよりを定期的に発行して、情報を多く伝える。 | | |
| | | 受験報告書を必ず提出させ、次年度以降の指導に資する。 | | |
| | | 長期休業中の進学補習を効果的なものにする。 | | |
| | | 大学進学希望者には積極的に大学入学共通テストを受験させる。 | | |
| 全職員の意識を向上させ、適切な進路指導をする。 | | 小論文や面接に関する生徒講習会に参加する職員を増やす。 | | |
| | | 担任団との会議、各教科への教科指導・面接指導の依頼などを通して、校内各分掌との連携がとれた指導を行う。 | | |
| | | 全職員で面接、小論文指導にあたり、生活態度の指導も行う。 | | |
| 進路指導(就職) | 社会人として必要な自覚と責任感を持たせる。 | 入学式当日に保護者を対象とした進路説明を行う。3年生の進路行事(6月)では、生徒・保護者対象進路説明会を実施する。 | | |
| | | 2年生を対象に進路説明会を実施する。 | | |
| | | 「進路のしおり」(冊子)を作成し、「進路だより」等を発行し、指導する。 | | |
| | | 工業各科で実施するインターンシップ・デュアルシステムの受入企業の開拓を必要に応じ行う。 | | |
| 生徒・保護者の希望する就職先への就職推進 | 全職員と情報を共有し就職試験に向け適切な進路指導を行う。 | 全職員を対象に職員会議等を通じて進路状況の説明をする。 | | |
| | | 進学係と連携し各学年を対象に進路指導を実施する。 | | |
| | | 3学年の担任や各科職員と連携し、進路相談や面接指導を実施する。 | | |
| 本校での学習内容が活かせる就職の実現に向け指導する。 | | 1年生がコースを選択する時期から、各コースで学習する専門知識を活かせる職業選択ができるように指導する。 | | |
| | | 全校生徒が各種の資格取得に励むために、資格取得支援制度などの情報提供を行う。 | | |
| 生徒指導 基本的な生活態度を身につけさせ、社会の一員としてルールを遵守する態度を育成する。 | 規律正しい生活習慣を確立できるように指導し、社会性を身につけさせる。 | 定期的、日常的に服装・身だしなみ指導を全職員で行い、規範意識を高めるとともに、保護者との連携を図りながら社会の一員としてのルールやマナーを遵守するよう働きかける。 | | |
| | | 礼儀正しく、さわやかな挨拶が校風となるよう、規律正しい生活習慣の確立を図る。 | | |
| | | 携帯・スマホ安全教室や集会等の指導で、携帯電話やスマートフォンの正しい使用法を身につけさせる。 | | |
| 生徒指導(生徒会)生徒会活動の充実・主体的に参加できる人材育成 | 交通安全指導を適切に行い、交通ルール・マナーを身につけさせる。 | 交通講話や原付バイク安全運転実技講習会を実施し、交通ルールの遵守、登下校時のマナー等、交通安全教育の充実を図る。 | | |
| | | 行事の企画や運営を通し、生徒会執行部員のリーダーシップを養う。 | | |
| | | 体育祭や球技大会を通し、全校生徒の体力の向上を図り、ルールやマナーの大切さを学ばせる。 | | |
| | | 文化祭を通し、全校生徒の学習・製作活動の成果を保護者や地域に発信する。 | | |
| 図書館を利用し | | 部活動を通し、全校生徒の興味・関心や技術を高め、心身の成長を図る。 | | |
| | | 広報活動を促進し、積極的利用を図る。 | | |

| | | | | |
|---|--------------------------------------|--|--|--|
| | やすく整備する。読書意欲の喚起。 | 委員会を活発にし、親しまれる図書館にする。 | | |
| 保健防災 体力の向上と健全な心身の育成を図り、物事を継続的に行う能力を育成する。 | 自己の健康と安全に関心を持ち、心身の健康管理ができる生徒の育成を目指す。 | 定期健康診断を行い、適切な健康管理に努める。 | | |
| | | 救急処置および健康相談を随時行う。 | | |
| | | 保健室便りを発行し、健康に関する意識の高揚を図る。 | | |
| | | 各学年別に保健講話を実施し、自己の健康への意識を高める。 | | |
| | | 生徒の健康管理のため、自動販売機の内容を精査する。 | | |
| | 進んで清掃・ゴミの分別に取り組みよう指導する。 | 清掃をきちんと取り組ませる。 | | |
| | | ゴミを分別して捨てる。 | | |
| | | 教室等のワックスがけを行う。 | | |
| | | 大清掃を行う。(毎学期、年6回) | | |
| | | モップ交換をする。 | | |
| 事故や震災時、感染症対策において、安全な行動が取れるように指導する。 | 防災避難訓練を行う。(年1回) | | | |
| | 校内の危険箇所の点検を行う。 | | | |
| | 感染症予防の指導を徹底する。 | | | |
| 涉外 P T A活性化 | 保護者と学校の連携を深め、P T A活動を円滑に進める。 | P T A役員会、P T A総会を実施する。 | | |
| | | 朝のあいさつ運動を実施する。 | | |
| | | 体育祭給水活動を実施する。 | | |
| | | 花いっぱい活動と散水メンテナンスを実施する。 | | |
| | | P T Aだより(年間2回)を発行する。 | | |
| 1学年 基本的な生活習慣を身に付けさせる。 | 基本的な生活習慣と規範意識を身に付けさせる。 | 無断欠席・遅刻・早退をしないように指導する。 | | |
| | | 身の回りの整理整頓に努め、貴重品等、自分の持ち物の管理を徹底するように指導する。 | | |
| | | 高校生らしい身だしなみ、挨拶をするように指導する。 | | |
| | 基礎学力を養成する。 | 授業に集中させる。家庭学習の習慣を身に付けさせるとともに、長期休業には課題等を与えて基礎学力の伸長をはかる。 | | |
| | | 学力の把握に努め、学習が遅れがちな生徒への個別指導を行う。 | | |
| | 適切なコース選択ができるように指導する。 | 進路説明会を実施し、進路に対する自覚を促す。 | | |
| | | コース選択説明会を実施し、適切な選択が出来るように指導する。 | | |
| 2学年 進路の目標を明確にする。 | 基本的な生活習慣を確立する。 | 高校生にふさわしい身だしなみを心がけるよう指導する。 | | |
| | | 明るい挨拶の励行を指導し、他者への思いやりの心を育てる。 | | |
| | | 規範意識の向上を図り、責任ある行動がとれるよう指導する。 | | |
| | 充実した学校生活を送る。 | 授業に集中し、意欲的・継続的に学習に取り組むよう指導する。 | | |
| | | 部活動や学校行事等へ積極的に参加するよう指導する。 | | |
| | | 修学旅行を通じて生徒間の親睦を図り、学年・学級の集団意識を高める。 | | |
| | 進路の目標を明確にする。 | 進学・就職情報を十分に提供し、生徒自らが進路目標達成に向けて取り組めるよう指導・助言する。 | | |
| 個別面談や保護者面談を実施し、生徒が進路目標を明確にできるよ | | | | |

| | | | | | |
|--|--|---|--|--|------|
| 3 学年 進路希望 の実現を 目指す。 | 最高学年として の生活を心がけ る。 進路希望の実現 に向けて最大限 の努力をする。 将来を見据えた 学習に取り組 む。 | う指導・助言する。 | | | |
| | | 社会人として相応しいモラルや言動が身につくよう指導する。 | | | |
| | | 学校行事等でリーダーシップが十分発揮できるよう指導・助言する。 | | | |
| | | 学習、部活動、学校行事には全力で取り組み、充実した学校生活となるよう指導する。 | | | |
| | | 生徒が進路目標を早期に明確化できるように指導・助言する。 | | | |
| | | 生徒・保護者に対し進路情報の提供を十分行い、意志の疎通を図る。 進路指導部と連携を図り、個に応じたきめ細かな進路指導を行う。 | | | |
| 工業各科 <機械創 造工学> 機械 エネルギー メカトロニクス <電気 情報> 電気 エネルギー 情報技術 <建築 環境> 建築 システム 建築イン テリア <土木 防災> 都市工学 防災工学 | 実践的な技術者 や技能士を目指 す生徒の夢の実 現をサポートす る。 | 実験実習、製図等の基礎科目を重点的に指導し、知識と技術の習得に努める。 | | | |
| | | レポートや課題等を期限内に提出させ、実習時の正しい服装や態度、安全に対する心構えについて指導する。 | | | |
| | | 担任と連携して、生徒の進路実現に向けた適切な指導を行う。 | | | |
| | | 資格取得や技能検定、技術系の大会、コンテストへの積極的な参加を促す。 | | | |
| | | 各種資格取得を目標に意識付けや、技術技能の向上のために支援を行う。 | | | |
| | | ものづくりコンテスト等への参加推進、指導の充実を図る。 電気情報に興味を持たせ技術者への道を支援。基礎力向上を図る。 | | | |
| 建築 システム 建築イン テリア | 建築に関する基礎基本を重視した「分かる授業」を実践する。 地域で活躍する建築技術者の次世代を担う者としての自覚を育てる。 資格検定試験により多くの生徒を参加させるとともに、合格率の向上を目指す。 インターンシップ、デュアルシステムを実施し生徒の職業観、勤労観を育成する。さらに報告会を実施し成果を広く伝える。 地域の教育資源を活用し、地域社会等と連携を強めながら取り組みの内容や成果を積極的に情報発信する。 | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| 土木 防災> 都市工学 防災工学 | 土木工学の知識と技術・技能の習得、また、インターンシップ・デュアルシステム、課題研究等の体験的学習により知の深化および総合化に努め、土木技術者としての倫理観・資質の創生や研鑽を目指す。 校外実習をはじめ、都市工学・防災・環境、地理空間情報に関する学習内容の充実化と専門的で先進的な技術教育を提供する。社会および自然との関わりを認識でき、地球規模の物事の思考から自らの行動と知徳をもち地域社会に貢献する志の高い技術者の育成を目指す。 産業社会での活躍を踏まえ、関連する資格等の受検への対応強化により、2級土木施工管理技術者検定試験や測量士補の合格率の維持向上に努め、新規開拓や挑戦を図る。地域と生徒との関りを深め、土木工学・土木技術を伝え、発信し、魅力を高める。 | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| 成果 | | | | | 総合評価 |